

「図書館のおかげです」。鳥取市にある防災機器開発会社、沢田防災技研の沢田克也社長（47）は、初めて商品化にこぎつけたシャッター補強器具を前に、あらためて図書館の力を実感している。二年前にアイデア

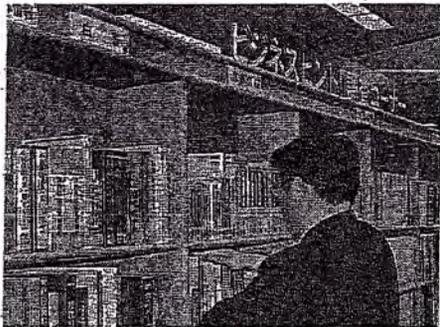
鋭角

を思いつき、一人で会社を設立したのが半年前。その間、頻りに鳥取県立図書館に通ってきた。「図書館は有能社員何人分もの戦力になった」と振り返る。以前は医療機器販売会社に勤めていた。台風翌日の外回りの途中、風で壊れた

玄関シャッターを見て、昔報まで、多くの資料が集まの扉にあった「かんぬき」による補強を思いついた。融資相談先や防災専門機関、商品デザイナーなど「取り外しできる横棒をシャッターに付けば風に耐えられる」と、同図書館のビジネス支援担当者を訪ね、商品化を相談した。「ビジネス支援に取り組み

たちまち、風力学から全図書館が増えている。しかも、台風被害統計、特許情報といったところもではない

変わる図書館 ② 増えるビジネス支援



館内には「ビジネスヒント！調査コーナー」も（鳥取県立図書館）

情報拠点 高まる存在感

いと、同図書館の小林隆志支援協力課長は話す。利用者への目的は多種多様。相談に個別に対応し、目指す情報や専門家、組織にたどり着くよう支援できる態勢が必要」というのだ。同図書館では毎月一回、専門家による起業相談会を開いており、沢田さんだけでなく、既に五人以上が起業した。特許や就業に関する相談会も定期的開催。さらに、県内で会合があれば、関連蔵書数百冊を積んだワゴン車で会場に駆けつけ、「出前図書館」を開く。経営セミナーのほか、クックینگ講座、メッキ技術研修会など、出前回数は年三十回を超える。

「図書館にも、ビジネス現場のニーズを敏感にこみ取る」とみている。

取る営業努力が必要」と、小林さんらは県内を走り回る。鳥取県の人口は約六十万人と全国最少だが、同図書館の図書購入費はトップクラス、県民一人当たりだと都道府県立では一位となる。そんな県の後押しにも支えられた営業努力で、地域の調査、情報拠点になりつつあるようだ。ビジネス支援図書館推進協議会によると、ビジネス支援を掲げる公立図書館は、五年前の約四十館から、今では二百館以上に増えたという。同協議会の竹内利明電気通信大客員教授は「ビジネス支援は、図書館の役割としてある程度定着した。いかに実効をあげるか、今後はその質が問われる」とみている。

伊万里市民図書館を活用して 世界にはばたく有田焼の万華鏡と万年筆が誕生!

図書館で夢を実現しました大賞 最優秀賞

マンガ制作:ラ・コミック/阿部有軌



有限会社 佐賀ダンボール商会

〒844-0023 佐賀県西松浦郡有田町丸尾丙2702-1
TEL:0955-43-2424 FAX:0955-43-2425

ビジネスの
情報収集は
図書館で!

伊万里市民図書館

〒848-0027 佐賀県伊万里市立花町4110-1
TEL:0955-23-4646 FAX:0955-22-3231
URL <http://www.library.city.imari.saga.jp/>



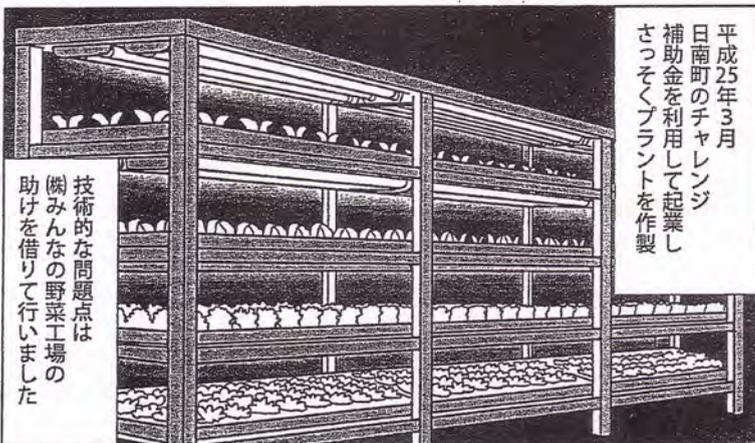
優秀賞

農業に光を！ 日南町図書館のビジネス支援で植物工場をスタート

日南町 足羽 覚 (やさい工場 net)

利用図書館

日南町図書館
鳥取県立図書館



『図書館があなたの仕事をお手伝い！—図書館員によるビジネス課題への回答事例集—』
ビジネス支援図書館推進協議会 2010 年（全国公立図書館へ寄贈済み）より

事例 1・レファレンス回答を見た事例提供企業からの感想

<率直な感想>

よく出来ている。市場調査の方法を教えてもらったようだ。市場調査をコンサルタントに依頼することもあるが、ピントがずれていて結局役に立たないことが多い。一方で、今回得られたレファレンス結果は的を射ており、大変参考になる。

<これまでの情報探索方法>

自社でウェブ探索をして情報を探すことが中心であった。その他には、出入りする業者や取引先に協力をお願いすることや、時々書店で書籍をあたる程度だった。図書館を利用したこと、利用してみようと思ったことはなかった。

<具体的な内容について>

「保健所事業概要」のような保健所から出された事業報告資料が図書館にあるとは思ってもよらなかった。日本の保健所で NAT 検査が行われているとは知らなかったし、検査件数まで公開されているとは驚いた。保健所ではどのような機械で検査が行われているのかさらに詳しく知りたくなった。また、こんなにすごい出来栄であれば「植物検疫所」についても調べてもらえればよかった。

<図書館について>

ここまで網羅性の高い、数字で裏付けされた情報を得ることは自社では無理だった。これなら事業に役立つため、今後は是非図書館を使ってみたい。収集した資料をもとにひとつの読み物としてまとめ上げるまでのサービスはなくても、このような資料が入手できるだけでもありがたい。

<レファレンスに対する更なる要求>

欧米のバイオの展示会に出ても参加者の多さは日本のそれの桁違いであり、海外は進んでいる。韓国では保健所で NAT 検査をやることが法律で決められているが、日本はなぜそうならないのか。また、日本にはまだまだ変な規制があり、医療機器販売業の認可をとっても、3年の販売実績がないと医療機器販売の認可を取得できず、医療機器製造のベンチャーは自社では販売できないなどの問題がある。韓国の件については課題に含まれてはいるが、今回のレファレンス結果で触れているものはなかったもので、それら韓国を含む海外の状況や日本の法整備についても知ることができたらもっと良かった。

特集 「図書館海援隊」プロジェクトについて

「課題解決型図書館の実践」

鳥取県立図書館の

「働く気持ち応援コーナー」

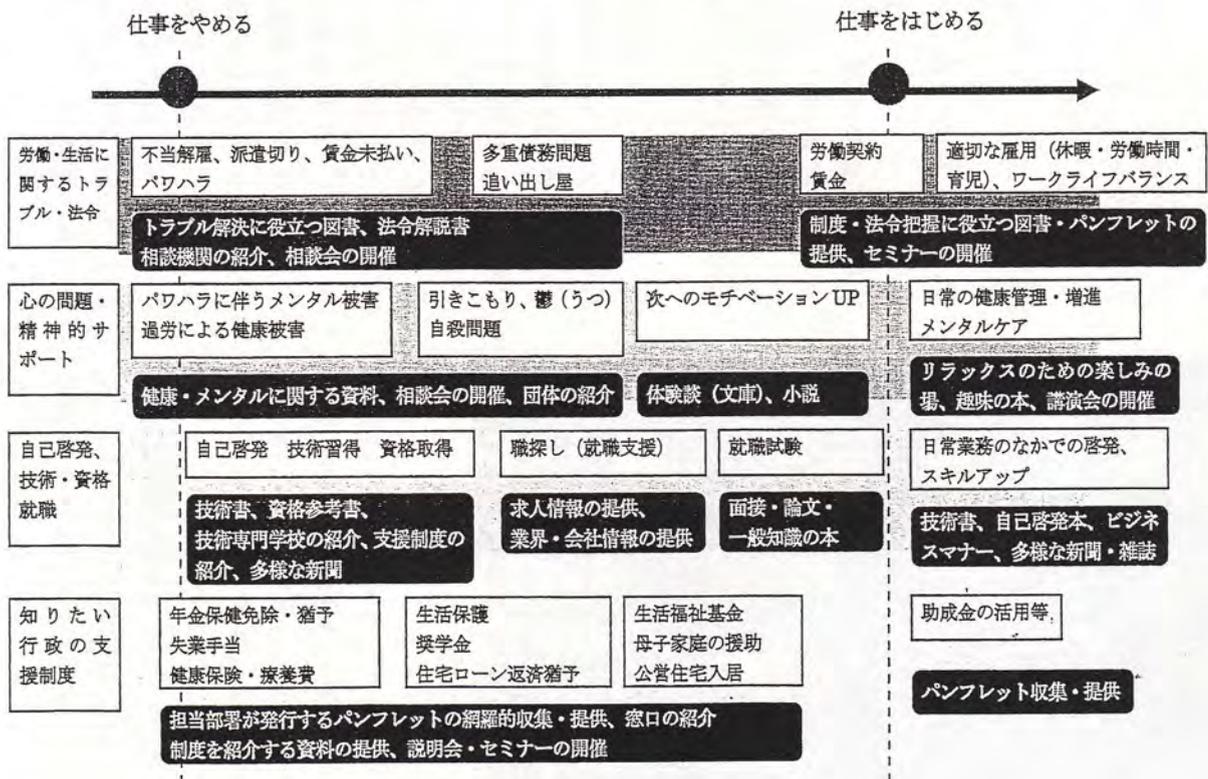
鳥取県立図書館 支援協力課長 小林 隆志
鳥取県立図書館 司書 高橋真太郎

図書館は、実質的によろず相談所の機能を果たしています。「借金の問題で悩んでいる…」、「家族が離婚することになったが…」、「病院で失明すると言われたが…」、「来週がんと手術を受けると言われたが…」、「有機農産物を使った製品を売りたい」等々。

図書館員の役割は、これらのお客様の課題解決を目的として、アドバイスができる人的情報を含めて情報提供をすることであり、鳥取県立図書館では「くらしに役立つ図書館推進事業」として様々な取り組みを行ってきました。本稿では、その取組みの流れの中で本年3月に設置した「働く気持ち応援コーナー」についてご紹介したいと思います。

平成20年の秋から翌年初めにかけて、「派遣切り」という言葉が世の中を駆け巡りました。リーマンショックに端を発する急速な景気の悪化がもたらしたのは大量の失業者であり、先ずそのターゲット

労働者の直面する問題と図書館のできること
～離職から再就職まで～



※労働者の皆様が直面する問題

※図書館のできること

作成：鳥取県立図書館 司書 高橋真太郎

になったのは、派遣社員たちでした。中には契約期間中であるにも関わらず解雇された事例や、就職の決まっていた学生の内定を会社の都合で一方的に取り消す事例も新聞紙上を賑わしました。鳥取県内でも多くの方が仕事を失ったという報道がされてきました。

このような、社会情勢の中で、図書館として応援できることは無いのか、検討の結果考えたのが、資格取得のためのテキストや問題集の提供です。それまで当館では、問題集やテキストは、本来学習者が個人的に購入するものであり、図書館の資料としては相応しくないと考えてきました。しかし、こんな時だからこそ必要とされる資料を提供すべきではと考え、平成21年1月末には資格取得・就職応援の専用コーナーを設置しました。

一方で、当館では平成18年から「法情報サービス」を展開しています。法情報というと難しく感じられますが、簡単にいうと生活上の困りごとを解決するための情報提供機能を強化してこうということなのです。「様々な問題の解決に図書館の資料を活用して欲しい」、「知識や経験によるアドバイスをくださる人や機関を紹介することで、本当に課題を解決して欲しい。」そういう願いを込めて始めたこのサービスでは「労働問題の解決」も想定し

取り組んできました。「労働相談所みなくる」や「法テラス」、「弁護士会」と様々な事業に協働して取り組んできましたが、一番象徴的な事業は、昨年12月に開催した8士業（弁護士、司法書士、行政書士、税理士、社会保険労務士、公証人、土地家屋調査士、不動産鑑定士）による合同相談会でした。相談者の悩みは多様な課題が複雑に絡み合っており、画一的に捉えることは出来ません。その課題を、多方面のプロが集結し様々なアドバイスをを行うことにより、一度に解決することをねらったのがこの相談会です。一日の相談者の数は80組を数え、盛況の内に終了しました。

「ビジネス支援サービス」、「医療・健康情報サービス」などの取組みを背景として、「法情報サービス」の発展型として生まれたのが、写真の「働く気持ち応援コーナー」です。このコーナーは、「就職情報」、「職業紹介」、「資格取得」、「賃金・雇用契約」、「職場のトラブル」、「メンタルヘルス」、「女性と仕事」、「障がい者と仕事」、「セカンドライフ」等の26の小テーマにより構成されています。「今ある課題を解決して次のステップを踏みだしたい」、「資格を取得して新たなステージに挑戦したい」と考えている方々が必要とする情報を、図書・パンフレット・専門機関

の情報等を総合的に提供したいというのがこのコーナーの趣旨であり、その原型は当館の高橋司書が考案した表1です。コーナーをつくるだけですが解決するほど問題は単純ではありませんが、試行錯誤をする中で、少しでも課題解決の役に立つ情報提供を行い、このコーナーを進化させていきたいと考えています。



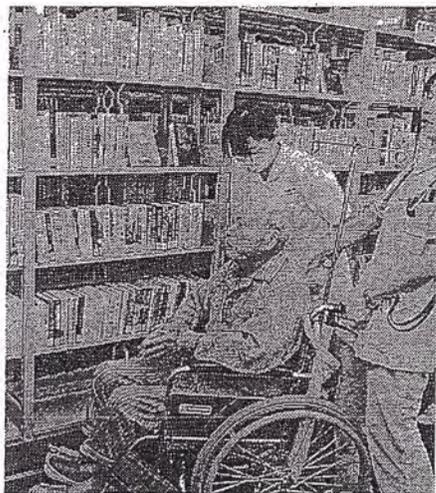
【働く気持ち応援コーナー】のテープカットの様子 平成22年3月12日

右から 中永廣樹鳥取県教育長、稲田寿久鳥取県議会総務教育常任委員会委員長、山根淳史鳥取県商工労働部長、森本良和鳥取県立図書館長



入院患者に貸し出しサービス

鳥取県立厚生病院 外部図書館と提携



鳥取県立厚生病院（倉吉市東昭和町）は21日、同病院図書室と倉吉市立図書館、鳥取大学付属図書館との相互協力協定を締結。提携先の図書館からの専門書や一般図書の貸し出し、閲覧サービスを開始した。病院図書室で本を選ぶ入院患者は鳥取県倉吉市の県立厚生病院

内の図書室に専任司書を配置し、地域の図書館と協定を結ぶのは全国で初めて。同病院図書室の蔵書は約4500冊（うち医学専門書3500冊）で、提携先の図書館から借り受けた蔵書をあわせると、約5500冊にのぼる。小児科に入院している患者のために絵本コーナーも設けられた。患者が自分の病気について調べたり、病院職員のスキルアップにも役立てる。日本図書館協会の常世田良理事は「各図書館の従来

が築けた。全国の模範になるように温かみのあるサポートをしてほしい」と期待を寄せている。

閲覧に訪れた乳ガン患者の会のメンバー、唐澤洋子さん（60）は「闘病記を読んで元気をもらった。他のメンバーにも勧めたい」と話した。

入院患者と病院職員は貸し出しサービスを受けることができ、通院患者は閲覧のみとなる。



図書館連携による健康支援事業
ME-LI.LINE
めりーらいん

お知らせ

- ・10月10日 わくわくレクリエーション講座 ご参加ありがとうございました。 報告
- ・4月1日 事業案内パンフレットがダウンロードできるようになりました。
- ・2月18日 タオル帽子作り講座とミニがんサロン ご参加ありがとうございました。
- ・1月28日 介護食/健康食教室 ご参加ありがとうございました。 報告

事業案内
ダウンロード 外面 内面

連携図書館
館名をクリックすると
ホームページが開きます

尾張旭市立図書館

瀬戸市立図書館

長久手市中央図書館

日進市立図書館

愛知医科大学
医学情報センター

事務局

愛知医科大学
医学情報センター
長久手市岩作雁又1-1
TEL 0561-61-5402

Last Up Date[2012/10/16]



公共図書館と医学図書館が手を繋ぎ、情報提供を通してみなさんの健康生活を応援します



図書館員の願い

「身近な情報を活用し、積極的に医療(治療)に参加してほしい」「信頼できる情報を集め、役立てを伝えたい」詳細はこちら(クリック)



調べ方ガイド

メディカルパス
病気や健康に関するお勧め資料を厳選し、パンフレットにまとめました。ぜひご活用ください!

メディカルパスを見る



図書館健康 新しく入った本

新しく入った本や、トピックを毎月紹介しています。

ブックリストを見る



資料を検索する

各図書館の所蔵検索
・尾張旭市立図書館
・瀬戸市立図書館
・長久手市中央図書館
・日進市立図書館
・愛知医科大学医学情報センター
便利な機能
館外貸出券をお持ちの場合、検約をすることもできます。

困った時は...
それぞれの図書館にお問い合わせ



めりーちゃん

われらのイメージキャラクター
メリーといえば「ひつじ」!
ということで、日進市立図書館の職員がデザインし、日進市在住のイラストレーター・ニシハマカオリさんに仕上げてくださいました。また、瀬戸市立図書館職員のアイデアで、陶製のノベルティも作成しました。これから様々な場面で登場します。どうぞよろしくお願いします!



これまでの歩み

2007年5月からの活動報告
詳しくはこちらから(クリック)
・図書館ボランティアによる「わくわくレクリエーション講座」を開催しました/2012.10.10

・タオル帽子作り講座とミニがんサロンを開催しました/2012.2.18

・介護食、健康食教室を開催しました/2012.1.28

・めりーらいん秋のイベント2010開催しました/2010.11-12



リンク

- 情報検索
- ・愛知県内図書館
 - ・国立国会図書館
 - ・メディカルオンラ
 - ・PubMed
- 役立つサイト
- ・からだところの
 - ・健康情報の本
 - ・国立国会図書館
 - ・診療ガイドライン
 - ・厚生労働省
- 医療機関検索
- ・瀬戸旭医師会
 - ・東名古屋医師会
 - ・名古屋市医師会
 - ・豊田加茂医師会
 - ・春日井市医師会



私事で恐縮だが、私は両親が病気になってはじめて、公共図書館の医学関係の情報が貧弱すぎることを身をもって体験した。医学関係の図書は高価であるし、あまりに専門的であるため、公共図書館は、一般的な、やさしく説明した本を用意しておけばよいのだろうと、それまで思っていた。しかし、それでは、まったく、不十分であることがわかった。ついでに言えば、やさしく説明した本は、内容も大同小異であり、いろいろなホームページで説明してあることの域を出ないものが多い。治療法や手術にどんな選択肢があり、どのように行われるか、リスクは何なのか、また、使われる薬の具体的な選択肢やそのメリット・デメリット（副作用）は何なのかということがはっきり書かれていないものが案外、多いのである。結局、神保町の大書店の医学書コーナーで立ち読みというには大きな本を読むことになったが、

そこに、どうみても、同じような状況になっていると思われる人が群がるように来ているのを見て、愕然とした。公共図書館って本当に役に立っていなかったんだな、利用者のことを馬鹿にしすぎていたな（やさしい本じゃないと読んでもわからないだろうと）と感じたのである。命や金にかかわること（病気やビジネス）になると、普段、怠惰な私のような人間でさえ、がぜん勉強しだすのである。実際、今までだったら見向きもしなかったような医学書を読んだりした。神保町で見た本は数万もする本だったので、さすがに買わなかったが、1万円くらいまでなら、購入した本もあった。ところが、公共図書館にある本は1万円どころか5千円の本さえない。2千円前後で内容が似通った本ばかりなのである。

今、インフォームド・コンセントということで、医者は懇切丁寧に説明してくれる。模型を使ってまで説明してくれる。しかし、これらのことは本を読めばわかるような話も多く、その先のもっとも核心的なところを十分話しあえなくなることもあるのだ。ともすれば、インフォームド・コンセントの名のもとに、説明はして、承認も得たよという防衛医療が行われるとも限らない。これもまた、患者やその家族は、そんなに難しいこと言たってわからないという、ちょっと舐めたような感覚がある。大学卒業が当たり前のように

多くなってきた今、すでにそのような状態ではない。年老いた親自身はそんなにわからなくても、子どもは違うのである。よりよりインフォームド・コンセントやEBMが行われるためには、患者やその家族自身が勉強する必要がある。病気を治す、あるいは、少しでも事態を好転させるためには勉強が必要なのだ。そのためには、身近な公共図書館がまず、医療や健康に関する、「肝心なことが書いてある」情報・資料を「高価でもある程度」そろえてほしい。その上で、今、動きはじめた病院の患者やその家族向けの図書館サービスが普及することを切に願う。大学図書館も一般への公開も進んでいるとは言いが、医学関係はとも、現実には利用の敷居が高い。

このテーマは、スローガンでなくて、館種をこえたサービス体系ができあがっていないと、最終的には無理だと思う。しかし、そういった課題にも応えていかないと、これからの図書館はただ厳しいだけだろう。だいいち、切にその情報を欲している潜在的な利用者から役に立たないと思われてしまう。流行ではなく、本当に医療や健康に関する情報の提供について読者の皆様に考えて欲しいと思い、この特集を組んだ。ぜひ、館種をこえた様々な方にお読みいただき、ご意見をいただきたいと思えます。 (山重壮一)

現代の図書館 第43巻 第4号 (通巻176号)

2005年12月25日発行 定価：1,365円 (本体1,300円)

編集：日本図書館協会現代の図書館編集委員会

発行：社団法人日本図書館協会 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 ☎03(3523)0811(代)

振替：00100-1-9375 (出版事業部専用)

印刷：船舶印刷株式会社

Libraries Today Vol.43 No. 4

ISSN0016-6332

© 2005 Japan Library Association *本誌からの無断転載を禁じます

本文は中性紙を使用しています

東京 練八横海小千木さい熊水土宇前甲静 札名大福 札幌 仙台 新潟 東京 静岡 名古屋 大阪 広島 高松 福岡 那覇

島根県出雲市に隣接する斐川町。一月中旬、同町の高齢者が入所するグループホームを紙芝居やカルタを持った二人組が訪れた。高齢者ケアのボランティアと、もう一人は斐川町立図書館の職員だ。

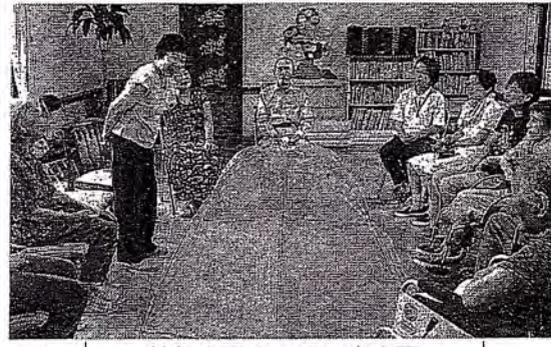
九人のお年寄りに紙芝居の話が弾んでいく。同図書館が四年前から始めた「思い出語り」のひとつに優しいことに驚かされた。来館できない高齢者に定期的に本を届けに行くと、もう一人はボランティア活動をはじめたのは、同図書館の白根一夫館長(59)。

代を思い出すことで認知症などにも効果があるとされ

「鋭角」

を楽しんでもらった後、出雲弁のカルタを取り出してみせると、「そういえば子供ころ、兄弟でこたつに入って、よくカルタをやったわ」。昔を懐かしむように絵札を手にとる。続いて、色あせた昭和初期の写真。若かったころの話題で、会

変わる図書館 ⑥ 高齢者向けサービス



蚊帳を囲んで思い出を語り合う (島根県斐川町)

施設に出向き「思い出語り」

「回想法」を取り入れていた図書館だった。思い出語りは、思い出を語り出すことで郷土史の本や資料、写真集などを多く備えている。図書館にはつづつつけの活動ではないかと考えた」と白根館長。「お年寄りが少しでも笑顔になる手助けができた」

白根館長は二〇〇三年の同図書館開館と同時に、館内に高齢者のくつろぎの場として「暖炉の間」を設けた。高齢者が読みやすい大活字本や戦前戦後の出雲地区の風景写真のほか、新たに洗濯板や蚊帳といった生活用品やお手玉など、高齢者が懐かしさを覚える品も置いた。

当初は評判がよかったが、数カ月で壁に突き当たった。白根館長は「高齢化が進む中で、図書館にも果たせる役割はあると思う。『思い出語り』はボランティアの協力が欠かせないが、活動を定着させていきたい」と話している。

掲げており、滞在型の観光地を今後増やしていきたいと考えた。

もう一つの狙いは、政府が一〇年までに年間一千万人という目標を掲げる訪日外国人客の呼び込み。PRや観光案内、ボランティアの使い方を工夫し、外国人旅行者をひき付けている三十六カ所を選んだ。

「外国人で賑(にぎ)わうまち」には、登別温泉(北海道登別市)や白川郷(岐阜県白川村)など日本を代表する観光地だけにとまらず、東京・秋葉原や大阪・ミナミの繁華街などの変わり種も入った。国際観光振興機構によると、秋葉原を訪れた外国人客数は〇五年で五十二万人と、〇一年に比べて一・五倍に急増。「電気街にアニメやフィギュアなどのサブカルチャーの要素が加わり、独自の魅力が満載」と紹介している。

白川郷・秋葉原… 集客の「手本」に

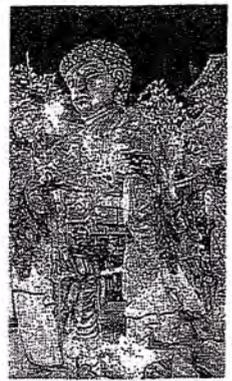
旅行者の心をくすぐる魅力的な観光地を増やそうと、国土交通省は滞在型観光や外国人客誘致に熱心に取り組む

子 滞在型など69カ所

一五%以上伸ばした。国交省はこうした観光客数を伸ばした全国三十三



民100周年系人ら祝う



日本の趣向を取り入れた山車(3日)

パレードは十二チームが二日間にわたって、各チームが芸術性などを競うコンテスト形式。有名チーム「ポルト・ダ・ペドラ」は日系人の農業や文化への貢献、日本のハイテク技術をたたえるオリシナル曲に合わせて一時間強にわたって会場を練り歩いた。

一九〇八年に最初の集

日経・朝日・読売
よみくろへサイト
新/ あらたにす
http://allatany.jp

